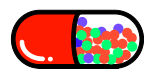




薬局通信



第 110 号



大阪母子医療センター

新規試用または採用、採用区分が変更になった医薬品一覧

新規試用医薬品	新規採用医薬品	新規患者限定医薬品
①リュープリン注射用 3.75mg ②ハイカリック液-1 号	①エピナスチン塩酸塩錠 20mg 「トリ」	①マブキャンパス点滴静注 30mg
新規院外専用医薬品		販売中止などにより変更した医薬品
①ザイザル OD 錠 2.5mg ②ヘパリン Na ロック用 10 単位/mL シリンジ 5mL 「テバ」 ③ハイカリック液-2 号 ④生食注シリンジ「オーツカ」 10mL ⑤ラベキュアパック 400 ⑥ボノサップパック 400 ⑦アイミクス配合錠 LD ⑧スーグラ錠 50mg ⑨リンヴォック錠 15mg ⑩テルネリン顆粒 0.2%		【供給停止による変更】 ①ナベルピン注 40 ②トブラシン点眼液 0.3% 【製造販売中止による変更】 ③カロナリー-M 輸液 ④カロナリー-H 輸液 ⑤セフカペンピボキシル塩酸塩錠 100mg 「ファイザー」

採用薬品の処方開始は、原則として**2022年1月5日(水)**からになります。

ただし、採用中止薬、切り替え等は院内在庫薬がなくなり次第実施となりますので開始日が異なる場合があります。

新規試用医薬品

① リュープリン注射用 3.75mg

処方箋医薬品 / 劇薬

(武田薬品工業株式会社) LH-RH 誘導体マイクロカプセル型徐放性製剤

一般名：リュープロレリン酢酸塩

採用理由

本剤はこれまで患者限定薬として使用してきたが、使用例が増えており、今後も増加していく公算が高いため。

効能効果

子宮内膜症、過多月経、下腹痛、腰痛及び貧血等を伴う子宮筋腫における筋腫核の縮小及び症状の改善、
閉経前乳癌、前立腺癌、中枢性思春期早発症

用法用量

1. 子宮内膜症の場合

通常、成人には4週に1回リュープロレリン酢酸塩として3.75mgを皮下に投与する。ただし、体重が50kg未満の患者では1.88mgを投与することができる。なお、初回投与は月経周期1～5日目に行う。

2. 子宮筋腫の場合

通常、成人には4週に1回リュープロレリン酢酸塩として1.88mgを皮下に投与する。ただし、体重の重い患者、子宮腫大が高度の患者では3.75mgを投与する。なお、初回投与は月経周期1～5日目に行う。

3. 前立腺癌、閉経前乳癌の場合

通常、成人には4週に1回リュープロレリン酢酸塩として3.75mgを皮下に投与する。

4. 中枢性思春期早発症の場合

通常、4週に1回リュープロレリン酢酸塩として30μg/kgを皮下に投与する。なお、症状に応じて180μg/kgまで増量できる。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：対象外

薬価：34,218円/瓶

② ハイカリック液-1号 処方箋医薬品
(テルモ株式会社) 高カロリー輸液用基本液
一般名：高カロリー輸液用基本液(5-1)

採用理由

現在、高カロリー輸液の基本液のうち、開始液の院内採用がなく、他の輸液にビタミ等の必要な成分を混注し代用している。混注時の調製ミス等のリスクを考えると開始液を採用することが望ましいため。

効能効果

消化管栄養が不能又は不十分な場合、あるいは休止する場合の経中心静脈輸液療法による栄養補給に用いる。

用法用量

本剤 700mL に対して 10%又は 12%アミノ酸注射液を 200～300mL の割合で加えてよく混合し、経中心静脈輸液療法の開始液とする。通常成人 1 日 1800～2000mL の開始液を 24 時間かけて中心静脈内に持続点滴注入する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：対象外

薬価：456 円/袋